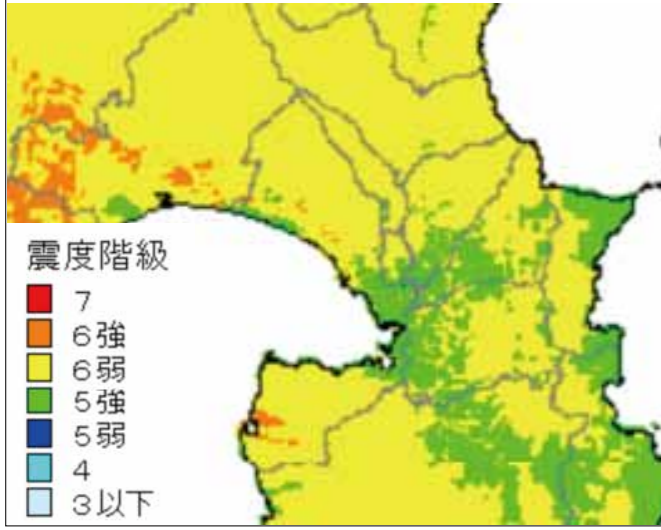


レベル1 震度分布



駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震・津波の内、レベル1では、「東海地震」の単独発生や「東海・東南海地震」「東海・東南海・南海地震」の連動も対象とし、冬の夕・深夜・夏の昼など多くのケースを想定し、それぞれ建物や人的被害を予測しています。

そのため、本市の被害発生要因を調査し、減災対策を進める必要があります。

想定
レベル1
沼津市の想定
震度はほとんどの地域で6弱

注2

地震・津波は自然現象です

今回の地震被害想定で示された震度分布や津波高等については、最新の科学的な調査、研究による知識に基づき予測されていますが、複雑な自然現象である地震・津波は不確実性がともないます。

注1

ポイント2
想定の注意点

今回の地震被害想定を減災に生かすためには、注意する点があります。

ポイント2
想定の注意点

レベル2の地震が次に起こると予測したものではありません

県の第四次地震被害想定では、レベル1の地震・津波とともにレベル2の地震・津波についても被害想定を行っていません。

これは、東日本大震災の教訓からレベル2の地震・津波に対しても命を守ることを最優先する対応を目指したものです

が次に発生する地震・津波がレベル2になることを予測しているものではありません。

レベル1 沼津市の想定内容 ケースごと想定は異なりますが、建物・人的被害は最大の場合

区分	駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震		
	東海地震単独	東海・東南海地震	東海・東南海・南海地震
地震動 (震度区分・面積)	公表なし		震度6強 6.0km ² 震度5強 28.1km ² 震度6弱 158.4km ² 震度5弱 0.1km ²
津波高(地点未公表)	最大7m 平均4m	最大7m 平均4m	最大6m 平均4m
津波最短到達時間	いずれの地震想定も同じ +50cm 約2分 最大津波 約13分(地点未公表)		
浸水面積	公表なし		浸水深1cm以上: 2.7km ² 1m以上: 1.9km ² 2m以上: 1.1km ²
建物被害	冬・夕、地震予知なしが最大 全壊・焼失棟数 約2,200棟		
人的被害	冬・深夜、早期避難率低、地震予知なしが最大 死者数 約3,500人 (夏・昼、予知有の場合は約300人)		

※津波到達時間は海岸への到達時間

注4

レベル2は最悪の事態を想定した結果です

被害想定では、2つのレベルの内、特にレベル2の被害が大きいです

が、駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するあらゆる可能性を考えた最大の地震・津波が発生し、さらに、冬の深夜に起きるなど、最悪の事態を想定した結果です。

そのため、予防的な対策により被害は大幅に減らすことができることから想定された被害の要因を調査し、「自助」「共助」「公助」から対策を進めることが大切です。

注3

津波浸水域の計算条件が国の被害想定より厳しい設定です

平成24年に国が発表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」より厳しい条件設定において被害の想定がされており、その内、主なものは次の2点です。

- 1 津波が堤防を越えた場合には、堤防が破壊されてしまうという条件設定です。
- 2 地震の大きな振れにより堤防の破壊や液状化による堤防の沈下などを見込んだ条件設定です。



Q 津波から身を守るための大震災の教訓は?

- A 多くの教訓から避難行動を中心に挙げる
- 1 あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定した避難を考える
 - 2 強い揺れや弱くても長い揺れの場合は津波を考え迷わず高台へ逃げる
 - 3 「津波でんでんこ」とにかく逃げる
 - 4 日常生活の中で、家族一人ひとりが避難場所を決めておく

Q 震度5や震度6の揺れとは?

A 立っていることが困難な震度6弱

今回の想定では、本市の震度はほとんどが6弱、5強でしたので、この2つの震度について説明します。



- ・立っていることが困難になる
- ・固定していない家具が移動しドアが開かなくなる
- ・壁のタイルや窓ガラスが破損し落下する



- ・歩くことが非常に困難になる
- ・棚の食器類など落ちるものが多い
- ・固定していない家具が倒れることがある
- ・補強されていないブロック塀が崩れることがある

イラスト：気象庁HPより